

新着本
情報

公民館図書室 今月のおすすめ



もうあかんわ日記
岸田 奈美 / 著
ライツ社



野生のごちそう
ジーナ・レイ・ラ・サーヴァ / 著
亜紀書房



フード・マイレージ
中田 哲也 / 著
日本評論社



ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー2
ブレイディみかこ / 著
新潮社



ミラーワールド
椰月 美智子 / 著
KADOKAWA



九十八歳。
戦いやまず日は暮れず
佐藤 愛子 / 著
小学館



うん古典
大塚 ひかり / 著
新潮社



秋
かこさとし / 文・絵
講談社



オノモロンボンガ
アルベナ・イヴァノヴィッチ
＝レア / 再話
光村教育図書

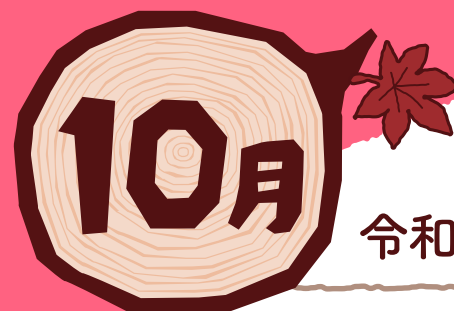
大桑村公民館図書室（村民体育館 横）

開室時間 平日 9時～17時/18時～20時 休日 9時～17時

※ 18時以降に図書室を利用される場合、体育館窓口へお申し出ください。



生涯学習情報「まなびましよう」は大桑村のホームページにカラーで掲載しています。
掲載内容に関するお問合せは 大桑村教育委員会生涯学習係 0264-55-1020



令和3年度 生涯学習情報

まなび ましよう

7号

令和3年10月14日発行

大桑村教育委員会・大桑村公民館



参加者募集

第39回 大桑村駅伝大会 参加者募集

開催日 11月6日(土) ※雨天決行

会場 大桑村スポーツ公園グラウンド

時間 受付開始 8時30分 スタート 10時

参加資格 小学校3年生以上で、
村内在住または村内事業所勤務の方

種目 男子部門・女子部門

チーム編成 1チーム7名以内(選手5名、補欠2名)
※男女混合でも参加可(男子部門の参加となります)。
補欠は無くても可。

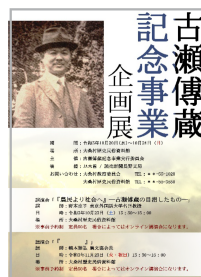
お問合せ・お申込み 大桑村教育委員会 生涯学習係 (0264-55-1020)

大桑村歴史民俗資料館のイベント

『古瀬傳蔵記念事業企画展』

期間 10月20日(水)
～24日(日)

時間 9時
～16時30分



記念講演会

「農民より社会へ
～古瀬傳蔵が目指したもの～」

日時 10月23日(土) 13時30分～15時

講師 野本 京子さん(東京外国語大学名誉教授)

定員 50名 ※事前予約制
(場合によってオンライン開催)

お申込み

大桑村教育委員会 生涯学習係(0264-55-1020)
大桑村歴史民俗資料館(0264-55-3550)

主催: 古瀬傳蔵記念事業実行委員会

『くわっこ工房活動展』

写真展

期間 10月30日(土)～11月7日(日)
※月曜休館

時間 9時～16時30分

主催: 大桑村地域活動支援センター
くわっこ工房



図書館準備室便り



図書館長 平中和司

気づいたのは文庫版『三国志』(横山 光輝 著)を読んでいるときでした。
どうも諸葛孔明の言っていることがわからない…いや、わからないんじゃない、
見えないんだ!

若いころから、視力にだけは自信があり、ランプの光で字の細かな文庫本を
読むなんて無茶なこともしたものでした。でも、老眼というものは情け容赦
なくやってくるようです。

視力が衰えて以来、読書のペースも落ちてしまいました。明るいところで
ないと本が読めなくなり、どうしても、本を読む場所や時間が限られてしまう
のです。

残念なことだと思っていたところに、思わぬ福音が現れました。仕事の関係
で使い始めたタブレット端末というやつです。アマゾンで電子書籍を購入
したり、青空文庫※のアプリを入れたりして読むのですが、すこぶる使い勝手
がいい。なんといっても活字の大きさを変えられるのがうれしいのです。活字
を大きくすれば老眼鏡なしでもサクサク読めます。おまけにバックライトで
暗いところでも読めるのです。

最近では、出版社も紙の本と同時にデジタル版を出版す
るようになりました。電子版で購入すれば、本屋さんに行
かなくてもすぐにタブレットで読むことができます。最近
面白かったのは、戦前に出版された冒険実話『無人島に生
きる十六人』。作家の椎名誠氏が「終わりまで一気に読みした」
と紹介していたものです。

こうした電子書籍の貸出サービスを始める図書館も増え
ています。特に、昨年来のコロナ禍以降、非接触型のサー
ビスともいえる電子図書館サービスは大きく伸びているそうです。

現在、長野県内の図書館界では、全県で電子図書館を導入しようという構想
が立ち上がっています。この構想、全県どこでも同じサービスが受けられ、
情報格差解消の一助として実現が期待されるところです。

※ 青空文庫(あおぞらぶんこ)は、著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品のテキストをインター
ネット公開しているサービス。



青空文庫より、
『無人島に生きる
十六人』
須川 邦彦 著